

The 箏 KOTO

第1回 箏はじめ

[出演] 深海さとみ、福永千恵子、吉村七重



[チケット]
全席自由
前売: 4,000円
当日: 4,500円



2020年
9月10日(木)
開演: 午後7時(6時半開場)

[会場] JTアートホールアフィニス

曲目(演奏順未定)

中能島欣一 三つの断章(1942)
入野義朗 二つの相(1971)
湯浅譲二 箏歌 芭蕉五句(1978)
三善 晃 ~白から黒へ~変転(1982)
西村 朗 タクシム(1982)

[チケットご予約]

東京コンサーツ TEL: 03-3200-9755 (平日 10:00-18:00)

東京コンサーツウェブチケット <http://www.tokyo-concerts.co.jp>

*セブンイレブンでのお支払い・お引き取りができます。

[主催] The 箏 KOTO 実行委員会 [マネージメント] 東京コンサーツ

[後援] 日本現代音楽協会、(公財)日本文化芸術財団、邦楽ジャーナル

The 箏 KOTO

未来への飛翔

池辺晋一郎

楽器は変遷を繰り返して、その重要な地点には必ず偉大な人物がいる。強弱を弾き分けられなかったチェンバロをピアノに移行させたのはバルトロメオ・クリストフオリ（1655～1731）。木管楽器のキーシステムを改良したのはテオバルト・ベーム（1794～1881）。

他方、我が国の箏は雅楽においてすでに十三絃。それが長く継承されてきたが、より幅広い表現に適應できるように、十七絃や八十絃あるいは教育用の短箏を作ったのは、宮城道雄（1894～1956）だ。

なかならず十七絃は、箏ファミリーのバス・パートとして、今や完全に定着している。その後、三十絃を考案したのは宮下秀冽（1909～93）。そして、野坂恵子（のち操壽／1938～2019）が作曲家の三木稔（1930～2011）と協力して、二十絃箏を作る。

1969年であった。野坂はこれをさらに発展させ、71年に二十絃箏、87年に二十二絃箏、91年に二十五絃箏を作り出した。

だが変遷のプロセスには、新しい楽器の創出地点にいる人物だけではなく、それを継承し、育む人間がいなくてはならない。その存在によって、楽器は市民権を得る。

箏の世界で重要な務めを果たしてきた人が、また果たしている人が何人もいる。

「箏はじめ」と題する今回のコンサートは、前記その何人かの中の、まさに核というべき3人による、その責務のひとつの解答だ。

さらに先に「箏の未来」が広がる。そこへ向かって、きょう、十三本、十七本、二十本の糸が、「箏」という楽器の主張」を厳しく、しかし華やかに、飛翔させる。

飛翔の先に「箏の未来」が、見えるではないか！

曲目（演奏順未定）

● 現代箏曲への道

中能島欣一（1904-1984）「三つの断章」（1942）
深海さとみ

● 新しい様式12音技法

入野義朗（1921-1980）「二つの相」（1971）
福永千恵子

● 箏歌の新たな世界

湯浅譲二（1929-）箏歌「芭蕉五句」（1978）
深海さとみ、福永千恵子

● 二十絃箏の登場から13年

三善 晃（1933-2013）「～白から黒へ～変転」（1982）
吉村七重

● 二十絃箏の新たな展望

西村 朗（1953-）「タクシム」（1982）
吉村七重

〈予告〉

2021年6月13日（日）東京オペラシティリサイタルホール
「The 箏 KOTO 第2回 箏の技術革新」

JTアートホールアフィニス

〒105-8422 東京都港区虎ノ門2丁目2-1 JTビル2F
TEL: 03-5572-4945
地下鉄銀座線「虎ノ門」駅3番出口 徒歩4分
地下鉄南北線「溜池山王」駅9番出口 徒歩5分

深海さとみ〈十三絃箏〉



東京藝術大学卒業・同大学院修士課程修了。その後毎年「深海さとみ箏リサイタル」を開催。文化庁芸術祭優秀賞・松尾芸能賞新人賞・文化庁芸術祭作品賞他受賞多数。テレビ・ラジオ出演の他海外演奏、作曲、教授活動と同時に数々の古典の編曲を手掛ける。宮城社大師範・元東京藝術大学准教授・上野学園大学客員教授・コロムビア大学マスタークラス指導・深海邦楽会主宰・深海合奏団主宰。多くの後進の育成に当たり、深海合奏団では特色として箏歌の「声」を主眼に置いて作品を委嘱し演奏会を開催している。

福永千恵子〈十三絃箏／十七絃箏〉



東京藝術大学邦楽科卒業。1980年から現代作品を中心に国内外でリサイタルを開催。1987年より国立劇場主催伶楽公演にて、正倉院古代箏、やよいのこなどの復元楽器の演奏を担当。「現代日本音楽の展開」公演では三善晃 湯浅譲二 西村朗 野田暉行らの初演曲を演奏。一柳慧音楽監督の[TIME]の箏奏者として世界各地で公演。東海大学での20年間に育成した卒業生と共にKO・TO²・KAIを結成し、「音 燦らかに」コンサートを主催。元東海大学教養学部教授、東京藝術大学非常勤講師。沢井箏曲院所属。

吉村七重〈二十絃箏〉



古典箏曲と新しい可能性を秘めた二十絃箏の音楽を国際的に発信し続ける現代日本を代表する演奏家。平成24年（2012年）春の紫綬褒章。他、朝日現代音楽賞始め受賞多数。二十絃箏のスペシャリストとして、独奏曲からオーケストラとの協奏曲まで湯浅譲二・西村朗・吉松隆はじめ多くの作曲家と共同作業を展開しており100曲を超える作品を初演。カメラータ・トウキョウや celestial harmonies (USA) から多くのCDをリリース。若手演奏家の育成にも力を注いでおり二十絃箏の新作を主とした「Koto Collection Today 邦楽展」は34回を数える。